



2020年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年6月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ストライク

コード番号 6196

URL <https://www.strike.co.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 荒井 邦彦

問合せ先責任者(役職名) 取締役兼執行役員

(氏名) 中村 康一 (TEL) 03-6865-7766

四半期報告書提出予定日 2020年7月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年8月期第3四半期の業績(2019年9月1日~2020年5月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第3四半期	4,979	45.9	2,130	77.6	2,130	77.5	1,565	95.4
2019年8月期第3四半期	3,413	21.1	1,199	12.9	1,200	12.8	801	11.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
		円 銭		円 銭				
2020年8月期第3四半期		81.96		81.55				
2019年8月期第3四半期		41.62		41.62				

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第3四半期	7,836		6,454			82.3
2019年8月期	6,427		5,162			80.3

(参考) 自己資本 2020年8月期第3四半期 6,450百万円 2019年8月期 5,158百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	14.50	14.50
2020年8月期	—	0.00	—		
2020年8月期(予想)				17.50	17.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年8月期の業績予想(2019年9月1日~2020年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,275	23.6	2,237	18.6	2,237	18.4	1,667	24.2	87.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年8月期3Q	19,354,200株	2019年8月期	19,354,200株
② 期末自己株式数	2020年8月期3Q	250,110株	2019年8月期	250,036株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年8月期3Q	19,104,111株	2019年8月期3Q	19,252,009株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用情勢の改善により景気は緩やかに回復してまいりましたが、米中貿易摩擦の深刻化及び新型コロナウイルス感染症の世界的流行による経済の減速が懸念される等、依然として景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社の事業領域である中堅・中小企業のM&A市場は、後継者不在の中小企業への日本政府による積極的な対策及び推進が功を奏したこともあり、中長期的に拡大傾向にあります。中小企業庁が2020年4月に公表した「2020年版中小企業白書」によると、2019年に休廃業・解散した4万3千社のうち約6割の企業は、直前期の決算が黒字であり、後継者不在を理由に事業が停止することがないよう、迅速に次世代の意欲ある経営者に事業を引き継ぐことが重要となっています。

このような環境下、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月以降のセミナーをすべて中止いたしました。また、緊急事態宣言発令期間中は、全社員を対象に原則テレワークとする対応を行ったことから、顧客との面談の機会が減少し、新規受託や案件の成約に遅れが生じる等の影響がありました。このように営業活動が制限される中、当社WEBサイト等でソーシャルディスタンスの啓発活動を行うとともに、M&Aの活用により企業同士は距離を縮めて連携を深め、生産性を高める「M&Aディスタンス」を標榜し、新規顧客獲得に努めてまいりました。

営業面におきましては、提携先金融機関より人材を受け入れることで、提携先金融機関内におけるM&A人材の育成を担い、協業によるM&A支援体制の強化を行いました。3月から5月にかけては、提携先もテレワーク等で活動が制限されたこともあり、新規案件の紹介が一時的に減少しました。

人員面におきましては、受託案件の増加への対応と持続可能な成長のため、当第3四半期累計期間においてM&Aコンサルタントを14名増員しました。従業員の増加と金融機関からの研修生受け入れの増加に伴い2019年9月に東京オフィスは2度目の増床を行いました。

この結果、新規受託については254件（前年同四半期203件）となりました。当第3四半期累計期間における売上については、成約組数は計97組（前年同四半期68組）となりました。大型案件が12組（前年同四半期4組）成約したこともあり、売上高は4,979百万円となり、前年同四半期と比べ45.9%増収となりました。売上原価は、売上増加に伴うインセンティブ給与の増加や案件にかかる紹介料の増加、M&Aコンサルタントの増加に伴う人件費の増加等により、1,701百万円（前年同四半期比35.6%増）、販売費及び一般管理費は、セミナー中止により広告宣伝費が削減されたものの、人員数の増加等による人件費の増加、本社増床に伴う地代家賃の増加等があり、1,147百万円（前年同四半期比19.7%増）となった結果、営業利益は2,130百万円（前年同四半期比77.6%増）となりました。これらの結果を受け経常利益も、2,130百万円（前年同四半期比77.5%増）となりました。また、資産効率化のため投資有価証券を売却し、特別利益として投資有価証券売却益を225百万円計上した一方、特別損失として投資有価証券評価損を36百万円計上した結果、四半期純利益は1,565百万円（前年同四半期比95.4%増）と増益となりました。

当社の成約組数と新規受託の第3四半期実績と当初計画は次の通りとなります。

	2020年8月期第3四半期 (実績)	2020年8月期第3四半期 (目標)	2020年8月期 (目標)	2020年8月期 (達成率%)
成約組数(組)	97	105	143	67.8
受託案件(件)	254	265	358	70.9

なお、当社はM&A仲介事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ1,071百万円増加し、7,001百万円となりました。これは主として、現金及び預金が832百万円、売掛金が239百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べ337百万円増加し、835百万円となりました。これは主として、敷金の増加等により投資その他の資産が331百万円増加したことによるものであります。

(負債の部)

当第3四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ127百万円増加し、1,381百万円となりました。これは主として賞与引当金が310百万円増加した一方で、前事業年度末の未払賞与の支給等によりその他流動負債が422百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べ11百万円減少しました。

(純資産の部)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ1,292百万円増加し、6,454百万円となりました。これは主として、利益剰余金が配当により277百万円減少したものの、四半期純利益により1,565百万円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染拡大の第2波到来が懸念される中、一部のM&A仲介案件で交渉中止となることや、成約時期が後ろ倒しになる等の影響が出ておりますが、当社の業績に大きな影響を与えるまでには至っておりません。また、今後新型コロナウイルス感染症が再流行した場合には、業績に大きな影響を及ぼす可能性はあるものの、現時点では著しい業績変動はないものと予想しており、2020年8月期通期業績予想につきましては、2019年9月30日付けで公表した予想値を据え置いております。

新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、事業の進捗を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,393,580	6,226,329
売掛金	502,862	742,274
その他	36,611	36,969
貸倒引当金	△3,016	△4,454
流動資産合計	5,930,037	7,001,118
固定資産		
有形固定資産	92,914	95,011
無形固定資産	884	5,543
投資その他の資産	403,444	734,558
固定資産合計	497,244	835,112
資産合計	6,427,282	7,836,231
負債の部		
流動負債		
買掛金	105,482	136,833
未払法人税等	368,594	576,509
賞与引当金	—	310,918
その他	779,717	357,264
流動負債合計	1,253,794	1,381,524
固定負債		
その他	11,305	—
固定負債合計	11,305	—
負債合計	1,265,100	1,381,524
純資産の部		
株主資本		
資本金	823,741	823,741
資本剰余金	801,491	801,491
利益剰余金	4,048,506	5,337,226
自己株式	△518,618	△518,949
株主資本合計	5,155,122	6,443,509
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,955	7,092
評価・換算差額等合計	2,955	7,092
新株予約権	4,104	4,104
純資産合計	5,162,181	6,454,706
負債純資産合計	6,427,282	7,836,231

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年9月1日 至2019年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年9月1日 至2020年5月31日)
売上高	3,413,589	4,979,253
売上原価	1,254,876	1,701,295
売上総利益	2,158,713	3,277,957
販売費及び一般管理費	958,970	1,147,719
営業利益	1,199,742	2,130,238
営業外収益		
受取利息	122	112
受取配当金	1,670	230
その他	—	33
営業外収益合計	1,792	375
営業外費用		
自己株式取得費用	1,037	—
営業外費用合計	1,037	—
経常利益	1,200,497	2,130,613
特別利益		
投資有価証券売却益	—	225,000
特別利益合計	—	225,000
特別損失		
投資有価証券評価損	—	36,598
特別損失合計	—	36,598
税引前四半期純利益	1,200,497	2,319,015
法人税、住民税及び事業税	441,579	824,184
法人税等調整額	△42,333	△70,898
法人税等合計	399,245	753,286
四半期純利益	801,252	1,565,729

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。